

モーリタニア月例報告  
(2018年3月及び4月)

2018年5月  
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【外政】

- 3月 2日 アブデル・アジズ大統領とサル・セネガル大統領との電話会談
- 3月 9日 イジードビヒ外相とシディコG5サヘル事務局新常駐代表との会談
- 3月12日 陳暁東中国外交部部長助理の当地訪問
- 3月14日 イジードビヒ外相のUNRWA支援緊急閣僚会合参加
- 3月15日 モーリタニア・ア首連間「二重課税及び脱税防止に係る二国間協定」の批准承認
- 3月15日 G5サヘル合同部隊に係る政府報道官コメント
- 3月17日 イランとの保健・医療分野での二国間協力に係る了解覚書調印
- 3月18日 タイイブ・アズハル総長の当地訪問
- 3月19日 モーリタニア人学生による当地米大使に対する抗議デモ
- 3月21日 アブデル・アジズ大統領のAU臨時総会参加
- 3月27日 ダルボエ・ガンビア外相のアブデル・アジズ大統領表敬
- 3月27日 ファキAUC委員長のアブデル・アジズ大統領表敬
- 3月27日 G5サヘル支援に係るジャイ経済・財務大臣と当地主要関係国・機関との協議会の開催
- 3月27日 ファール外務大臣付マグレブ・アフリカ連合兼在外モーリタニア人担当大臣のア首連訪問
- 3月28日 岡村政府代表のイジードビヒ外相表敬
- 3月28日 AUC主催サヘル地域に関する戦略的協議会合開催
- 3月29日 アブデッラ内務・地方分権大臣の第2回AU専門技術委員会出席
- 3月29日 ホーシー派によるサウジへのミサイル発射事案に係るモーリタニア外務・協力省コミュニケ
- 4月 2日 当地インド大使館新設の決定
- 4月 3日 李軍中国共産党中央対外連絡部副部長の当地訪問
- 4月 5日 サウジアラビア国王薨アブデル・アジズ大統領宛親書の手交
- 4月 6日 アブデル・アジズ大統領とカボレ・ブルキナファソ大統領との電話会談
- 4月10日 モーリタニア・トルコ二国間協力に係る了解覚書締結
- 4月12日 イジードビヒ外相のアラブサミット外相級準備会合参加

- 4月15日 アブデル・アジズ大統領の第29回アラブサミット出席
- 4月19日 ジャイ経済・財務大臣のG5サヘル財務大臣会合参加
- 4月22日 アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣のトルコ訪問
- 4月22日 ジャイ経済・財務大臣のサヘル同盟会合参加
- 4月26日 ディア法務大臣のテロ資金対策国際会議参加
- 4月26日 当地におけるAUサミット準備協議の開催

#### 【内政】

- 3月15日 国民議会の議員定数増加に係る閣議決定
- 3月15日 又アクショツト治安・平和アカデミー設立に係る閣議決定
- 3月21日 独立選挙監視委員会運営委員の任命方法に関する閣議決定
- 3月28日 国民議会後期通常議会召集日の決定
- 3月28日 反憲法改正連合からの変革進歩勢力党の脱退
- 3月29日 与党「共和国のための連合」の党員拡大キャンペーン
- 4月 3日 アブデル・アジズ大統領の沿岸警備隊又アディブ司令部視察
- 4月21日 FNDU（野党連合）の次期選挙参加表明

#### 【経済】

- 4月 2日 トルコ及び中国漁船の操業に対する非難
- 4月 2日 第2回又アディブ投資フォーラムの開催
- 4月 4日 仏TOTAL社幹部の当地訪問
- 4月19日 国境沖合の海底ガス田開発に係る世銀グラントの供与

#### 【治安情勢】

- 3月 3日 ワガドゥグ中心部でのテロ事案に係る「イスラムとムスリムの支援団（JNIM）」犯行声明
- 3月 7日 アルカイダ指導者アイマン・ザワヒリ氏によるテロ扇動ビデオ
- 3月28日 マリ・キダルMINUSMA基地襲撃事件に係るJNIM犯行声明
- 4月17日 モーリタニア人テロリストの死亡
- 4月18日 ブルキナファソ北部におけるブルキナファソ人教師誘拐事件及び市長殺害事件に係る「ISIL大サハラ」犯行声明

#### 【人権・人道】

- 3月20日 UNHCRによる当地難民受入れ状況の公表
- 3月22日 アムネスティ・インターナショナルによる当地人権状況の報告
- 4月24日 モーリタニアの2017年報道の自由ランキング

## 【外政】

### ● アブデル・アジズ大統領とサル・セネガル大統領との電話会談

アブデル・アジズ大統領はサル・セネガル大統領と電話会談を行い、モーリタニア・セネガル二国間関係、同関係強化のための方途及び地域の諸課題につき協議した。（3月5日付当地政府系紙「シャアブ」）

### ● イジードビヒ外相とシディコG5サヘル事務局新常駐代表との会談

9日、イジードビヒ外相は外務・協力省において、ママン・サンボ・シディコG5サヘル事務局新常駐代表と会談を行い、共通の関心事項について協議した。（3月12日付当地政府系紙「シャアブ」）

### ● 陳暁東中国外交部部長助理の当地訪問

#### 1 アブデル・アジズ大統領との会談

12日、アブデル・アジズ大統領は、大統領府において当地訪問中の陳暁東（Mr. Chen Xiaodong）中国外交部部長助理と会談を行った。同会談後、陳部長助理は要旨以下のとおり述べた。

（1）アブデル・アジズ大統領との会談において、同大統領に対し、本2018年9月上旬に中国で開催される中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）首脳会合の習近平国家主席発同大統領宛招待状を手交したところ、同大統領はFOCACへの出席を確約した。

（2）また、アブデル・アジズ大統領は、53年前の外交関係樹立以来、発展を続けてきた両国の協力関係に満足感を示した。

（3）本年モーリタニアにおいてAU総会が開催されるが、中国はこれまでAUを常に支えており、今後も支え続ける。次回FOCAC首脳会合においてはAU支援が主要テーマとなる。

#### 2 イジードビヒ外相との会談

同日、イジードビヒ外相は、外務・協力省において当地訪問中の陳暁東中国外交部部長助理と会談を行い、二国間の協力関係及び同関係の更なる強化のための方途につき協議した。

#### 3 AU総会へのロジ支援の表明

同日、イジードビヒ外相は、当地訪問中の陳暁東中国外交部部長助理から、本年6月及び7月にモーリタニアで開催されるAU総会運営のために大統領府儀典に供与される30台の車両の鍵を受け取った。また、両者は、モーリタニア政府に対する総額100万元の事務用品供与に係る文書に署名した。

（3月13日付当地政府系紙「シャアブ」）

●イジードビヒ外相のUNRWA支援緊急閣僚会合参加

14日、イジードビヒ外相は、15日にローマで開催されるUNRWA支援緊急閣僚会合参加のため、イタリアに向けてヌアクショットを出発した。

(3月14日付当地政府系ニュースウェブサイト「AMI」(アラビア語))

●モーリタニア・ア首連間「二重課税及び脱税防止に係る二国間協定」の批准承認

15日に開催された閣議において、2015年10月にモーリタニア・ア首連間で調印された「二重課税及び脱税防止に係る二国間協定」の批准が承認された。同協定はモーリタニア・ア首連経済協力関係の発展、モーリタニアのビジネス環境改善及び海外からの直接投資促進に寄与する。(3月16日付当地政府系紙「シャアブ」)

●G5サヘル合同部隊に係る政府報道官コメント

15日に行われた閣議後の定例記者会見において、ウルド・シェイフ文化・伝統産業大臣兼政府報道官はG5サヘル合同部隊の戦略に関して述べていたところ、要旨以下のとおり。

1 全ての国がG5サヘル合同部隊に関心を持っており、不安定なサヘル地域における平和構築、テロとの戦い及び不法移民・密輸対策のために創設された同部隊の戦術は、必要に応じて攻撃型にも防御型にもなり得る。

2 G5サヘル主要国であるモーリタニアは、テロ組織の脅威に対し、常に警戒を怠らず、あらゆる状況を正確に見極め適切な措置を講じていく所存。(3月16日付当地政府系紙「シャアブ」)

●イランとの保健・医療分野での二国間協力に係る了解覚書調印

1 17日、イラン訪問中のブーバカル保健大臣は、ハーシミー(M. Hassan Qazizadeh HASEHMI)イラン保健・医療教育大臣と共に、保健・医療分野での二国間協力に係る了解覚書に署名した。今般署名された了解覚書により、以下の取組が行われる。

- (1) 初期治療及びUHC分野での技術移転及び協力
- (2) ニーズに基づいた特殊治療のためのモーリタニアへの医師団派遣
- (3) モーリタニア側の優先度に基づく保健センター及び病院の建設・改修
- (4) 保健システム、リプロダクティブ・ヘルス及び伝染・非伝染性疾病等対策分野での情報交換及び経験の共有
- (5) 医薬品及び医療機材に係る法律及び認可基準の互換
- (6) ワクチン製造分野での協力

(7) モーリタニアの医学生及び看護学生に対する奨学金給付及び保健・臨床分野でのモーリタニア人大学院生の受入を通じた研修の拡充(2018年～2020年)

(8) モーリタニアにおける医科大学の建設及び改修

(9) マラリア及びエイズを含む伝染性疾病, 母子保健, リプロダクティブ・ヘルス, 青少年の健康維持及び保健・医療研究システム分野での研究協力

(10) 保健・医療研究所の建設及び改修

2 了解覚書署名式において, 両大臣は, 良好なモーリタニア・イラン二国間関係を賞賛し, 医療・保健分野での二国間関係の更なる強化を図っていく旨確認した。(3月19日付当地政府系紙「シャアブ」)

### ● タイイブ・アズハル総長の当地訪問

アフマド・タイイブ・アズハル総長が当地を訪問したところ, 概要以下のとおり。

なお, アズハル機構は, イスラム教スンニ派で最も権威のある宗教機関とされ, 他宗教との対話や世界各国との関係構築を通じて暴力的過激主義対策に取り組んでいる。

#### 1 過激思想及び偏向思想対策に関するセミナー

18日, 国際会議場においてイスラム・宗教教育省主催「過激思想及び偏向思想対策に関するセミナー」が開催された。同セミナーにはダウド・イスラム・宗教教育大臣及びタイイブ・アズハル総長が出席し, 要旨以下のとおり述べた。

##### (1) ダウド・イスラム・宗教教育大臣

モーリタニアのウラマー(イスラム法学者)はエジプトのウラマーと古くから交流があり, モーリタニアのウラマーは最古のイスラム教育・研究機関であるアズハル機構を尊敬し, 慕っている。

##### (2) タイイブ・アズハル総長

過激主義及びテロ問題をイスラム教の教えと結びつけることはできない。このセミナーが, 過激思想及び偏向思想を矯正しイスラム共同体を守るきっかけとなることを願う。

#### 2 アブデル・アジズ大統領との会談

19日, アブデル・アジズ大統領は, 大統領府において当地訪問中のアフマド・タイイブ・アズハル総長と会談を行った(ダウド・イスラム・宗教教育大臣及びモスレ駐モーリタニア・エジプト大使同席)。同会談後, タイイブ・アズハル総長は要旨以下のとおり述べた。

(1) アブデル・アジズ大統領との会談において, アズハル機構とモーリタニアの宗教学校間の協力推進の方途につき協議した。

(2) 同大統領との間で、アズハル機構附属「イマーム・アル・アシュアリー・センター」の設立に合意した(当館注:イマーム・アル・アシュアリーはイスラム教スンニ派の一派であるアシュアリー神学派の祖。モーリタニアのイスラム教徒の多くが属するマーリク法学派は、アシュアリー神学派の流れを汲んでいる)。

(3) また、宗教学校及び一般課程大学に所属するモーリタニア人学生に対するアズハル奨学金を拡充する。

(4) これらの目的を達成するための合同委員会を設置し、同委員会は今後関係者との連携を図っていく。

### 3 ハッターミン首相との会談

同日、ハッターミン首相は、首相府において当地訪問中のアフマド・アッタイブ・アズハル総長と会談を行った(ダウド・イスラム・宗教教育大臣及びモスレ駐モーリタニア・エジプト大使同席)。

### 4 高等教育及び研究分野における大学間協力協定の締結

同日、国際会議場において、アイユーン・イスラム法大学及びイスラム研究高等教育機関(I S E R I)は、アズハル大学との間で高等教育・研究分野での協力協定を締結した。(19日及び20日付当地政府系紙「シャアブ」)

## ●モーリタニア人学生による当地米大使に対する抗議デモ

1 19日、イスラム研究高等教育機関(I S E R I)内の英語教育センターで開催された式典において、同センター所属のモーリタニア人学生が、式典に出席したマイケル・ドッドマン(H. E. Mr. Michael DODMAN)当地米大使に対し、米国によるエルサレムのイスラエル首都承認撤回を求める抗議デモを行った。

2 抗議デモを行った学生達が、ドッドマン当地米大使の前で、パレスチナ国旗を振りながら、エルサレムは永続的にパレスチナの首都であり、イスラエルによるエルサレム占領は不法である旨シュプレヒ・コールを行うなど、抗議デモが過激化したため、同大使は式典を途中退席した。(3月19日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル=アフバール」(アラビア語))

## ●アブデル・アジズ大統領のAU臨時総会参加

21日、ルワンダの首都キガリにおいてAU臨時総会が開催され、アブデル・アジズ大統領他、アフリカ各国首脳及び国際機関代表を含む多くのパートナーが出席した。同総会において、アブデル・アジズ大統領及びアフリカ各国首脳が、AUが構想するアフリカの統合・繁栄・平和のための「アフリカ大陸自由貿易圏(A f C F T A)」協定及びキガリ宣言への署名を行った。(3月22日付当地政府系紙「シャアブ」)

●ダルボエ・ガンビア外相のアブデル・アジズ大統領表敬

1 27日、アブデル・アジズ大統領は大統領府にて、当地訪問中のダルボエ・ガンビア外相の表敬を受け、イジードビヒ外相が同席した。右会談の中で、ダルボエ・ガンビア外相からアブデル・アジズ大統領に対してバロウ・ガンビア大統領の挨拶が伝えられたのに対し、アブデル・アジズ大統領からは、バロウ・ガンビア大統領への挨拶を伝達するようダルボエ・ガンビア外相へ託された。また、同大統領は、あらゆる分野におけるモーリタニア政府の対ガンビア協力の取組みについて繰り返し言及した。

2 ダルボエ・ガンビア外相は、会談の中で地域の治安情勢についてアブデル・アジズ大統領と協議したと述べた。また、ヌアクショットでのガンビア大使館建設に必要な土地をモーリタニア政府が供与する一方、ガンビア政府もバンジュールでのモーリタニア大使館建設に必要な土地を供与したことを明かした。（3月28日付当地政府系紙「オリゾン」）

●ファキAUC委員長のアブデル・アジズ大統領表敬

1 27日、アブデル・アジズ大統領は大統領府にてファキAUC委員長の表敬を受けた。同委員長の今回のモーリタニア訪問の目的は、「サヘルに関する戦略協議会合」へ出席するためである。

2 右表敬の終了後、ファキAUC委員長は、AUも2014年にサヘル戦略を策定しているが、その他の支援国・機関も同様の様々な戦略を策定していると指摘するとともに、G5サヘル諸国が合同部隊の実働化に向けて準備しているこのタイミングで、支援国・機関が一堂に会してコーディネーションのあり方を取りまとめることは有意義であると述べた。また、同委員長は、今回の2日間の協議会合により、支援国・機関が一つになって、それぞれの経験を踏まえつつ、より首尾一貫した、より現実的なロードマップを策定することが可能となると述べた。（3月28日付当地政府系紙「オリゾン紙」）

●G5サヘル支援に係るジャイ経済・財務大臣と当地主要関係国・機関との協議会の開催

ジャイ (Moctar Ould Diay) 経済・財務大臣が同省内において、当地仏大、仏開発庁 (AFD)、G5サヘル常駐事務局、世銀、国連、アフリカ開発銀行 (AfDB) から成る混合委員会との間で協議会を開催し、サヘル5か国（特にモーリタニア）により打ち出されるプログラムやプロジェクトの実施を再活性化させるための方途につき議論が行われた。（3月28日付当地政府系紙「オリゾン」）

●ファール外務大臣付マグレブ・アフリカ連合兼在外モーリタニア人担当大臣  
のア首連訪問

1 第1回モーリタニア・ア首連合同委員会への出席

27日、ファール外務大臣付マグレブ・アフリカ連合兼在外モーリタニア人担当大臣はアブダビで開催された第1回モーリタニア・ア首連合同委員会に出席した。同委員会では、政策連携、文化、エネルギー、生物資源、通信テクノロジー及び市民社会を含む様々な分野での協力に係る多くの二国間協定及び了解覚書への署名が行われ、特に「モーリタニア・ア首連財界人会」の設立に係る了解覚書への署名も行われた。（3月28日付当地政府系紙「シャアブ」）

2 スルターン・ジャーベル・ア首連国務大臣との会談

28日、ア首連訪問中のファール外務大臣付マグレブ・アフリカ連合兼在外モーリタニア人担当大臣は、第1回モーリタニア・ア首連合同委員会のマージンで、スルターン・ジャーベル・ア首連国務大臣との会談を行った。同会談では、二国間関係強化の方途及び共通の関心事項につき協議された。（3月29日付当地政府系紙「シャアブ」）

●岡村政府代表のイジードビヒ外相表敬

28日、当地訪問中の岡村善文政府代表がイジードビヒ外相を表敬し、両国共通の課題及び二国間関係強化の方途を協議した。（3月30日付当地政府系紙「シャアブ」）

●AUC主催サヘル地域に関する戦略的協議会合開催

1 3月28日、国際会議場でサヘル地域に関する戦略的協議会合が開幕した。G5サヘル、国連及びその他のパートナーとの共催でAUが主催する同会合では、サヘル地域の現状及び将来、同地域が直面する諸課題、G5サヘル諸国に対する援助協調の方途、すべての問題を扱うロードマップ策定を含む多くの議題が、2日間にわたり協議される。AUは、これまでも国際的関心を集める特定の地域に関する戦略的協議会合を開催しており、今次会合は第2回会合となる。第1回会合のテーマはアフリカの角地域であり、第3回会合のテーマは大湖地域となる。

2 同会合開会式に出席したアブデル・アジズ大統領をはじめとする参加者は以下のとおり述べた。

(1) アブデル・アジズ大統領

ア 本会合出席のためにモーリタニアを訪れたすべての方を心より歓迎する。また、本会合のような重要な会合の開催地にモーリタニアを指名してくださったAUに感謝申し上げる。

イ 我々は、2013年に、サヘル及びサブサハラ・アフリカ地域11か国の治安協力を推進するためのヌアクショット・プロセスを提唱した。同プロセスに基づき、現在サヘル地域の平和と安定のための多くのイニシアティブが存在するが、特にG5サヘルは理想的な取組である。G5サヘル合同部隊を支援する国際機関及びパートナーの取組を非常に高く評価している。本会合の成功を祈念する。

#### (2) ムーサ・ファキAUC委員長

ア サヘル諸国及びサブサハラ・アフリカ諸国間の治安協力を推進するヌアクショット・プロセスが提唱されたこのヌアクショットで開催される本会合は特別な意味を持つ。ヌアクショット・プロセスをはじめとするサヘル地域安定化のためのアブデル・アジズ大統領の尽力を高く評価している。

イ G5サヘル及びヌアクショット・プロセスは、サヘル地域が抱える多くの課題のうちテロとの戦い、麻薬の密輸、貧困の撲滅、若者のエンパワーメント及びガバナンス強化といった優先課題の解決策を模索する上で極めて重要な取組である。かかる観点から、客月23日にブリュッセルで開催されたG5サヘル支援国会合におけるEU、サウジアラビア、ア首連、トルコ、そして日本のコミットメントを高く評価している。

#### (3) アミナ・モハメッド国連DSG

テロ、不安定な治安情勢及び気候変動といった脅威に晒されているサヘル地域は、国連にとり極めて重要な地域である。他方、2018年の平和構築及び人道支援分野の国連予算において、スーダン関連予算として45億米ドル、中央アフリカ関連予算として35億米ドルがそれぞれ計上されているのに対し、サヘル地域関連予算は27億米ドルである。我々は、サヘル地域が抱える諸課題に立ち向かい、同地域の住民のニーズに呼応しながら、経済開発及びガバナンス強化のために更に尽力しなければならない。(3月29日付当地政府系紙「シャアブ」)

#### ●アブデッラ内務・地方分権大臣の第2回AU専門技術委員会出席

1 29日、アブデッラ内務・地方分権大臣がラバト(モロッコ)で開催された第2回AU専門技術委員会に出席した。同委員会には、各国の公務・行政近代化・地方自治体担当大臣が出席した。

2 同委員会の開催に先立ち、アフリカ大陸における人口動態の大きな変化に伴い必要性が高まる新たな開発メカニズムに関する専門家会合が2日間に渡り開催された。今般開催された第2回AU専門技術委員会での主要目標は、公務・行政近代化・地方自治分野におけるAUの政策及び戦略の策定及び評価であった。(3月30日付当地政府系紙「シャアブ」)

●ホーシー派によるサウジアラビアへのミサイル発射事案に係るモーリタニア外務・協力省コミュニケ

29日、モーリタニア外務・協力省は、ホーシー派によるサウジアラビアへのミサイル発射事案に係るコミュニケを発出したところ、要旨以下のとおり。

1 有志連合は、サウジアラビア防空軍によるホーシー派のミサイル迎撃成功を発表した。

2 モーリタニア・イスラム共和国は、地域及び世界の平和を脅かし、国際法、安保理決議2216号及び同2201号に違反するホーシー派の卑劣な行為を強く非難する。

3 また、モーリタニアは、平和と安定を防衛する正統な権利を有し、モーリタニアの兄弟であるサウジアラビア王国との連帯を表明する。（3月30日付当地政府系紙「シャアブ」）

●当地インド大使館新設の決定

インド政府は、2021年までにアフリカにおいて、現在の29か国への代表团に加え、モーリタニアを含む18か国での大使館新設を承認した。（4月2日付当地独立系ニュースウェブサイト「クリデム」）

●李軍中国共産党中央対外連絡部副部長の当地訪問

1 マハム「共和国のための連合（UPR）」党首との会談

（1）1日、与党UPRの招待に応じて当地訪問中の李軍（Mr. LI Jun）中国共産党中央対外連絡部副部長（中東・北アフリカ担当）は、UPR本部においてマハムUPR党首との会談を行った。同副部長の当地訪問は、2016年3月のUPR党首訪中以降に当地を訪問した中共幹部の中で最もハイレベルの要人往来となった。

（2）また、李軍副部長は、当地訪問中に友誼港及び国立博物館視察を行い、習近平氏の思想に関するセミナーに出席する予定。同セミナーには、マハム党首を含むUPR党员及びヌアクショット大学中国語学科の学生が参加する。（4月1日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」）

2 アブデル・アジズ大統領への表敬

2日、李軍中国共産党中央対外連絡部副部長は、大統領府においてアブデル・アジズ大統領を表敬した。同表敬後、同氏は以下のとおり述べた。

（1）今般、与党UPRの招待に応じて、中国共産党とUPRとの協力関係強化のためモーリタニアを訪問することとなった。2015年のアブデル・アジズ大統領訪中時の習近平国家主席とアブデル・アジズ大統領との両党の協力関

係構築に係る合意に基づき、両党の関係は強化されてきた。

(2) 表敬には、マハムUPR党首及び張建国当地中国大使が同席し、開発のために与党が果たすべき役割につき協議された。アブデル・アジズ大統領は、二国間関係強化のための両党の協力関係の重要性を強調した。また、李軍副部長は、同大統領に対し、本2018年9月上旬に中国で開催される中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)首脳会合へのアブデル・アジズ大統領の出席を期待する旨述べた。(4月3日付政府系紙「シャアブ」)

### 3 国民議会議長への表敬

2日、李軍中国共産党中央対外連絡部副部長は、国民議会においてボイルル(Mr. Mohamed Ould BOILIL)国民議会議長を表敬した。同表敬には、国民議会第1副議長、同事務局長及び張建国当地中国大使が同席し、議会運営分野での両国の協力関係強化の方途につき協議された。(4月3日付政府系紙「シャアブ」)

### 4 モーリタニア国立医療病院眼科センター視察

(1) 3日、李軍(Mr. LI Jun)中国共産党中央対外連絡部副部長は、モーリタニア国立医療病院内に中国の支援により建設された「中国・モーリタニア協力眼科センター」を視察し、モーリタニア保健省次官が同行した。同副部長は同センターの各病棟を視察しつつ、関係者から、同センターが提供している医療サービス、診察の様子及び眼科医療分野における今後の二国間協力の展望につき詳細な説明を受けた。

(2) 2015年に設立された同センターでは、数次にわたって中国から派遣される中国人医師団が、数百人の眼科疾病患者の治療にあたりるとともに、モーリタニア人医師の育成に努めている。また、必要な医療器材の整備も行われている。(4月4日付当地政府系紙「シャアブ」)

### 5 経団連との会合出席

同日、李軍中国共産党中央対外連絡部副部長は、モーリタニア経団連本部で開催された経済交流活性化のためのワーキング・セッションに出席した。同会合には、ムハンマド・ゼイン・アル＝アービディーン・モーリタニア経団連会長も出席し、両国間の経済交流活性化の方途につき協議された。(4月4日付当地政府系紙「シャアブ」)

### ●サウジアラビア国王堯アブデル・アジズ大統領宛親書の手交

5日、マティーリー(H.E.M. Hazaa Ben Zein Al Matiri)当地サウジアラビア大使はアブデル・アジズ大統領を表敬し、第29回アラブ連盟サミットへの出席及びサウジ主導の連合軍の訓練への参加招待に係るサルマン・サウジ国王堯アブデル・アジズ大統領宛親書を手交した。(4月6日付当地政府系紙「シ

ャアブ」)

●アブデル・アジズ大統領とカボレ・ブルキナファソ大統領との電話会談

6日、アブデル・アジズ大統領はカボレ・ブルキナファソ大統領と電話会談を行い、カボレ大統領に対し、ブルキナファソの首都ワガドゥグで発生した卑劣なテロ事件に対する遺憾の意を表するとともに、無辜の犠牲者に対する哀悼の意及び負傷者に対するお見舞いメッセージを伝えた旨報じた。(4月7日付当地政府系紙「シャアブ」)

●モーリタニア・トルコ二国間協力に係る了解覚書締結

4日、トルコ訪問中のミクナス商業・工業・観光大臣は、アンカラにおいてトルコ商業大臣との間で、通商・観光分野での二国間協力に係る了解覚書に調印した。(4月5日付当地政府系紙「シャアブ」)

●イジードビヒ外相のアラブサミット外相級準備会合参加

1 12日、現在サウジアラビア訪問中のイジードビヒ外相は、アラブサミット外相級準備会合に出席し、アラブ文化サミットを開催することを確認した。

2 同会合において、イジードビヒ外相は要旨以下のとおりスピーチを行った。

(1) パレスチナ問題

ア 米国によるエルサレムのイスラエル首都承認、米大使館のエルサレム移転に係る決定及び日々行われているユダヤ教の布教活動により、我々にとって第一の課題であるパレスチナ問題は、危険な展開を迎えている。イスラエル軍のガザでの大虐殺により、平和裏にデモを行っていた人々の内約20名が命を落とし、約1,400名が怪我を負った。

イ また、UNRWAは資金難に陥っているため、UNRWAの支援に頼っている約500万人の避難民が深刻な状況に置かれている。

(2) イエメン問題

ア サウジアラビアは、数次にわたり自国の平和と安定を脅かす卑劣な攻撃に晒されている。

イ モーリタニアは、今日改めて、昨11日に友好国であるサウジアラビアを攻撃した敵を強く非難する。

(3) アラブ文化サミット

ア モーリタニアは、アラブ文化サミット開催に係る決定を支持している。右は、ヌアクショット・サミットでの協議結果を踏まえて決定されたものである。

イ 我々は、アラブ世界において外交及び政治が成し遂げることができなかったものを、文化の力で成し遂げることができると確信している。(4月13日

付当地政府系紙「シャアブ」)

●アブデル・アジズ大統領の第29回アラブサミット出席

- 1 15日、サウジアラビア訪問中のアブデル・アジズ大統領が、ダハラーン（サウジアラビア）で開催された第29回アラブ・サミットに出席した。
- 2 18か国の首脳が参加した同サミットでは、パレスチナ問題、シリア情勢、イエメン情勢、リビア情勢、テロとの戦い、イランによる干渉及びアラブ諸国間の意見の相違について協議された。
- 3 また、同サミット閉幕時には「ダハラーン宣言」が発表され、アラブ諸国の首脳がパレスチナ問題の重要性を改めて確認した。（4月16日付当地政府系紙「シャアブ」)

●ジャイ経済・財務大臣のG5サヘル財務大臣会合参加

- 1 19日、ジャイ経済・財務大臣は、世銀及びIMFとの協議のマージンにおいて開催されたG5サヘル財務大臣会合に参加した。同会合では、G5サヘルグループが同地域で開始予定のプログラムやプロジェクトの実施を強化・加速化させるための方途について検討が行われた。（4月23日付当地政府系紙「オリゾン」)

●アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣のトルコ訪問

- 2 22日、アブデル・ヴェッタ（Mohamed Abdel Vetah）石油・エネルギー・鉱業大臣は、3日間のトルコ実務訪問に向けてヌアクショットを出発した。同大臣の今次訪問は、エルドアン・トルコ大統領がモーリタニアを先般来訪した際に署名された石油・鉱業分野の合意覚書（MOU）を受けて実施されるものである。（4月24日付当地政府系紙「オリゾン」)

●ジャイ経済・財務大臣のサヘル同盟会合参加

- 1 22日、ジャイ経済・財務大臣は、ワシントンにおける世銀・IMF春季会合のマージンで開催されたサヘル同盟会合に、他のG5サヘル諸国経済担当大臣と共に参加した。同会合には、仏、独、西、伊、英、EUのほか、世銀副総裁、アフリカ開発銀行（AfDB）、UNDP、仏開発庁（AFD）の各代表が参加した。
- 2 同会合では、サヘル同盟の行動計画及びG5サヘルとの調整の下に実施検討中の重要プロジェクトの実施活性化及び加速化の方途について議論が行われた。次回会合は5月に開催予定。（4月24日付当地政府系紙「オリゾン」)

●ディア法務大臣のテロ資金対策国際会議参加

ディア（DIA Moctar Malal）法務大臣は26日にパリで開催されたテロ資金対策国際会議に出席した。（4月27日付当地政府系紙「オリゾン」）

●当地におけるAUサミット準備協議の開催

イジードビヒ外相が当地駐在アフリカ外交団を招致の上、ウルド・ウダーア設備・運輸大臣（兼AUサミット準備閣僚委員会委員長）の出席の下、2018年6月及び7月に当地開催予定のAUサミットに向けた準備協議を行った。（4月26日付当地政府系紙「オリゾン」）

【内政】

●国民議会の議員定数増加に係る閣議決定

15日に開催された閣議において、ギディマカ州ガブ（Ghabou）郡及びインシリ州ベニシャム（Benicham）郡の新設に伴い、国民議会議員定数を現行の155名から157名に変更することが決定された。（3月16日付当地政府系紙「シャアブ」）

●ヌアクショット治安・平和アカデミー設立に係る閣議決定

15日の閣議において「ヌアクショット治安・平和アカデミー」設立が決定された。同アカデミーは警察、憲兵隊及び軍隊を含む全てのモーリタニア治安機関関係者に対する研修実施のために適切な環境となる。（3月16日付当地政府系紙「シャアブ」）

●独立選挙監視委員会運営委員の任命方法に関する閣議決定

21日の閣議において、独立選挙監視委員会（CENI）運営委員の任命方法に関する法案が承認された。同閣議後の定例記者会見において、アブデッラ内務・地方分権大臣は本決定に関する詳細を明かしたところ要旨以下のとおり。

- 1 与野党それぞれが提出する11名のリストから、アブデル・アジズ大統領が公平に11名の運営委員を任命する。そのうち3名は必ず女性が任命される。
- 2 CENI運営委員長は、同委員会での2回の秘密投票によって選出される。1回目の投票での得票数上位2名によって決選投票が行われ、2回目の投票においてより多く票を獲得した者がCENI運営委員長となる。また、同委員会での秘密投票において最も多くの票を獲得した者が同副委員長に選出される。（3月22日付当地政府系紙「シャアブ」）

●国民議会後期通常議会召集日の決定

28日、国民議会が、後期通常議会召集日を4月2日午後5時とするとのコミュニケを発出した。(3月29日付当地政府系紙「シャアブ」)

●反憲法改正連合からの変革進歩勢力党の脱退

28日、変革進歩勢力(FPC)党が反憲法改正連合「G8」からの脱退を表明した。(3月28日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル=アフバル」(アラビア語))

●与党UPRの党員拡大キャンペーン

1 29日、与党UPRは、新党員募集キャンペーンを開始した。同キャンペーンは、党組織刷新及び活性化を目的としたものであり、UPRは同キャンペーン成功のために、様々な人的資源、ロジスティックス及び技術を投入している。

2 アブデル・アジズ大統領及び同夫人が、ヌアクショット市内のUPR本部において、UPR党員名簿に自身の氏名を記入し、同キャンペーンは開始した。(3月30日付当地政府系紙「シャアブ」)

●アブデル・アジズ大統領の沿岸警備隊ヌアディブ司令部視察

1 3日、アブデル・アジズ大統領は、沿岸警備隊ヌアディブ司令部で開催された会議において議長を務め、その後ヌアディブの同司令部を視察した。

2 2012年に創設された沿岸警備隊は、モーリタニア治安機関として必要不可欠な存在であり、要員数450名、レーダー7台、沖合巡視船2隻、沿岸巡視船2隻、巡視艇20隻及び四輪駆動車の装備を擁する。(4月4日付当地政府系紙「シャアブ」)

●FNDU(野党連合)の次期選挙参加表明

1 21日、ムハンマド・ウルド・マウルードFNDU総裁は記者会見を開き、次期選挙がモーリタニア史上特に重要なものとなるとの考えから、FNDUの次期選挙への参加を表明した。

2 同総裁は会見の中で、与党とFNDUとの間で秘密裏に行われてきた交渉について言及するとともに、右協議は前向きなものであり、複数のテーマについて議論することができたと明かした。また、右協議に参加しなかった野党が存在することも認めた。(4月23日付当地政府系紙「オリゾン」)

【経済】

●トルコ及び中国漁船の操業に対する非難

1 零細漁民によれば、トルコ及び中国企業が底魚及びタコを主とする頭足類を処罰無く（好き放題に）漁獲していることより、モーリタニアとEUとの漁業協定に関連した権益は日に日に失われている。

2 零細漁民たちは、トルコ及び中国企業による禁漁区域での違法漁業及び度重なる事故の誘発に関して非難している。

3 モーリタニア政府当局が過剰に魚粉（生産）の許可を与えていることが、健康被害をもたらす有害物質の排出による海洋汚染や環境汚染等の危険な前例を作り出している旨指摘されている。なお、モーリタニアにおいて、近年約40の魚粉生産関連企業が設立された。（4月2日付当地独立系ニュースウェブサイト「クリデム」）

#### ●第2回ヌアディブ投資フォーラムの開催

1 2日及び3日にヌアディブで第2回ヌアディブ投資フォーラムが開催された。

2 閉会式後の記者会見において、ダフ・ヌアディブ経済特区総裁は、特区設置後の同地区に対する投資額は6億米ドルを越え、1,200の雇用機会が創出されるなど、同経済特区は国民の生活水準向上に貢献している旨述べた。また、ダフ総裁は、同経済特区設置により、港湾関連取引高が20億米ドルから50億米ドルに大幅に増加した旨述べた。（4月4日付当地政府系紙「シャアブ」）

#### ●仏TOTAL社幹部の当地訪問

1 4日、当地訪問中のプヤネ（Mr. Patrick POUYANEE）仏TOTAL社CEOが、大統領府においてアブデル・アジズ大統領を表敬した。同表敬には、モハメド・アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣及びモリス（Mr. Guy MAURICE）同社開発部長が同席した。

2 昨年来、当地で精力的に活動している仏TOTAL社は、本2018年より、13,000平方Kmの水域において、地震探査及び2つの調査井の掘削を含む探鉱作業を開始した。また、仏TOTAL社以外にも米エクソンモービル社及び英BP社がモーリタニアへの投資を行っている。なお、現在仏TOTAL社は、C7、C9及びC18鉱区での天然ガス開発事業に取り組んでいる。（4月5日付当地政府系紙「シャアブ」）

#### ●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発に係る世銀グラントの供与

1 19日、ジャイ経済・財務大臣は世銀幹部との協議を行った。同会合は、

世銀及びIMFとの年次協議の一環であり、モーリタニアの経済情勢及び経済開発に係る同国政府の取組の成果についてレビューを行う機会となった。

2 同日、ジャイ経済・財務大臣は、世銀オペレーション局長との間で、2,000万ドル（7億ウギア相当）のグラントに署名を行った。同グラントは、モーリタニアのガス開発支援プロジェクトに対する資金供与であり、これによりTortue Ahmeyin Gretar 鉱区（当館注：モーリタニア・セネガル国境沖合にある海底ガス田鉱区）の開発が可能となるだけでなく、ガス・炭化水素セクターの交渉及び管理に係るモーリタニア政府の能力強化、同セクターの開発成果の向上にも資するものである。（4月20日付当地政府系紙「オリゾン」）

### 【治安情勢】

●ワガドゥグ中心部でのテロ事案に係る「イスラムとムスリムの支援団（JNIM）」犯行声明

#### 1 犯行声明発出

（1）イヤド・アグ・ガリ率いるAQ系テロ組織JNIMが、2日にワガドゥグ（ブルキナファソ）で発生したフランス大使館及びブルキナファソ軍統合参謀本部に対する2つのテロ攻撃に係る犯行声明を発出した。

（2）同声明においてJNIMは、仏軍の攻撃によって命を落とした数名の幹部を含む複数の戦闘員の家族に対し弔意を表すためにフランス大使館への攻撃を実行したと述べ、テロ攻撃の動機を明らかにした。

（3）また、JNIMは、フランスとその同盟国に対し、「あなた方は、かつてあなたが辿った道を再び辿ることになるだろう」と警告し、本テロ攻撃はブルキナファソの現体制及びG5サヘル諸国が仏軍の代理戦争を行うことを阻止するために行ったとも述べた。

（4）さらに、JNIMは、テロ組織との対決を避け、（仏軍の）命令に従うことがなかったブルキナファソの旧政権の政策を賞賛した。（3月4日付「サハラ・メディア」（アラビア語））

#### 2 犯行動機に関する分析

マリ北部の情報筋によると、2日にワガドゥグ（ブルキナファソ）で発生したフランス大使館及びブルキナファソ軍統合参謀本部に対する2つのテロ攻撃を実行したJNIMの犯行動機は、モハメド・ウルド・ヌエーニ司令官（「アル＝ムラービトゥーン」）、マリク・アグ・ワナスナット司令官、Sidi Mohamed Ag Bugnaイマーム及びAbdallah Ag Ufta司令官を含む多数のJNIM幹部及び戦闘員を殺害した仏軍に対する報復である。（3月3日付当地独立系ニュースウェブサイト「ヌアクショット通信」（アラビア語））

### 3 犯行動機に関する分析

現地の情報筋によると、JNIMの犯行動機は、ムフタール・ベル・ムフタールの右腕でJNIM創設者の一人でもあるモハメド・ウルド・ヌエーニ「アル＝ムラービトゥーン」司令官及びイヤド・アグ・ガリの右腕であるマリク・アグ・ワナスナット「アンサール・ディーン」司令官を含むJNIM幹部及び戦闘員を殺害した仏軍に対する報復である。（3日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」）

#### ●アルカイダ指導者アイマン・ザワヒリ氏によるテロ扇動ビデオ

1 米国テロ情報監視団体ウェブサイト「SITE」によると、アルカイダの指導者アイマン・ザワヒリ氏が「獅子の子孫たちよ、フランスが戻ってきた。」と題した約7分間のビデオ・メッセージを発出し、北アフリカのイスラム教徒に対し、サヘル地域において仏軍と戦うよう扇動した。なお、同ビデオの撮影日時等は不明である。

2 ウサマ・ビン・ラーディン（U b L）の後継者であるザワヒリ氏は、JNIMが犯行声明を発出したワガドゥグ（ブルキナファソ）での襲撃事件について一切言及していないものの、「獅子の子孫たちよ、あなた方の先達が追い出した者たち（フランス人）が、あなた方の同胞であるイスラム教徒を殺すために、またあなた方が今も彼らに占領されていることを思い知らせるために戻ってきた。」と呼びかけ、フランスによる植民地支配に言及した。また、失敗に終わった「アラブの春」については「（「アラブの春」前と比べ）腐敗はより劣悪なものとなっている。」と述べた。

3 なお、ザワヒリ氏は、客年9月にもアフリカのイスラム教徒に対し、「あなた方の先達を殺し、あなた方の土地を占領したフランス人たちに教訓を授けよ。」と呼びかけ、テロを扇動した。（3月7日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」（アラビア語））

#### ●マリ北部キダルMINUSMA基地襲撃事件に係るJNIM犯行声明

1 イヤド・アグ・ガリ率いるJNIMが、マリ首相が訪問を予定していたマリ北部キダルで22日に発生したMINUSMA基地襲撃事件に係る犯行声明を発出した。

2 JNIMは、同声明において、十字軍であり侵略者である仏軍及びその同盟軍のキダルの基地をミサイルによって攻撃することに成功したと述べた。

3 今回の襲撃は、マリ首相のキダル訪問に備えた嚴重な警備体制が敷かれる中で行われ、人的被害は甚大であった。（3月28日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル・アフバール」）

## ●モーリタニア人テロリストの死亡

1 モーリタニア人テロリストMohamed Ould Nenne（別名：Eymen Chinguitty）がマリ北部で死亡したことが先週発表された。サヘル地域の治安情勢に詳しいヌアクショット通信（ANI）主幹のMohaned Mahmoud Ebilmaamy氏の情報によれば、このテロリストはマリ北部の歴史的な町Arawaneから遠くない場所で仏軍の襲撃により殺害された模様。殺害された当時、同テロリストは6名の若者に対して講義を行っていたが、そのうちの5名は一緒に殺害され、残り1名はバルカンヌ作戦部隊により拘束された。

2 同人は、トラルザ州ブティリミット（Boutilimitt）の生まれで、年齢は50歳前後。2006年12月、従兄弟のMoussa Ould Ndoeyeと共にマリ北部のテロリストキャンプに加わったが、従兄弟の方は2008年4月にヌアクショットでモーリタニア警察と交戦した際に死亡。

3 同人は、ムフタール・ベル・ムフタール（MBM）率いるムラービトゥーンに属していたが、2007年にMBMのもとを離れてEmir Sahara Yahya Jwadyに移った。2008年1月には他の戦闘員と共にアルジェリアにいたが、その後チュニジアへ移ってJabal Chambiの戦闘員と共に戦った。2013年6月にマリへ戻り、Arawaneに所在するコーラン学校で指導を担当した。同人が最後に目撃されたのは2017年8月であり、同人はビデオの中で、周辺国の情報機関の手先として働いたとされたAQIMメンバーの逮捕及び処刑について発表していた。（4月17日付当地独立系紙「La Tribune」）

## ●ブルキナファソ北部におけるブルキナファソ人教師誘拐事件及び市長殺害事件に係る「ISIL大サハラ」犯行声明

1 ISGS報道官は、架電にて仏通信社（AFP）に対し、12日にブルキナファソ北部ノソンプ市ボロ（Boro）において発生したブルキナファソ人教師誘拐事件は同テロ組織による犯行である旨明らかにするとともに、今後仏語での教育を行うものたちを殺害する旨述べた。

2 同組織により誘拐されたユースフ・スワンボ（Yousouf Souwambo）氏は、職場である学校の校庭にて複数のバイクに乗った武装集団によって連れ去られた。また、武装集団は同氏を誘拐する際に発砲し、生徒1名が被弾し亡くなった。

3 さらに、同報道官は、ブルキナファソ北部コトゴ市長殺害事件の犯行についても認め、十字軍（欧米諸国）のためにブルキナファソ軍と協力していたため同市長を殺害した旨述べた。

4 ISGSはニジェール、マリ及びブルキナファソの国境地域を活動範囲と

しており、ブルキナファソで活動するアンサール・アル＝イスラーム（A I）とも近い関係にある。昨年には両組織が連携し、ブルキナファソ北部ナソンプ市のブルキナファソ軍営地を攻撃し、右攻撃により12名のブルキナファソ軍兵士が死亡した。（4月18日付当地独立系ニュースウェブサイト「アル＝アフバール」（アラビア語））

## 【人権・人道】

### ●UNHCRによる当地難民受入れ状況の公表

UNHCRは当地の難民受入れ状況を公表したところ、要旨以下のとおり。

1 本年2月中だけでも1,898人の新たなマリ難民が国境を越えてモーリタニアに流入した。ンベラ難民キャンプ（当館注：当国極南東のマリとの国境付近に位置）に登録されているマリ難民は、現時点で53,512人に上る。

2 モーリタニアには1,615人の都市難民及び812人の庇護希望者が存在し、マリ人を除くと中央アフリカ、シリア、コートジボワール出身者が大半を占め、主にヌアクショットとヌアディブに居住している。

3 当地UNHCRは、今日に至るまでにンベラ難民キャンプ内で生まれた約7,600人のマリ人の子どもに対し、モーリタニア当局が（ようやく）出生証明書を交付したことに満足を示した。他方で、UNHCRは、2018年における同機関の活動に必要な20.1百万米ドルに関し、現時点で全く財政支援を受けることができていない旨不安を表明した。

（3月20日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」）

### ●アムネスティ・インターナショナルによる当地人権状況の報告

1 アムネスティ・インターナショナル（以下、「ア」とする）による報告要旨は以下のとおり。

（1）「ア」が発表した68ページに及ぶ報告書によれば、複数の国際人権団体の概算を引用しつつ、モーリタニアでは、奴隷制度は公的には1981年に廃止されたが、2016年において依然として43,000人（当国総人口の約1%）に上る人々が奴隷的身分にあった。

（2）奴隷制度を「人道に対する罪」として、以前の懲役5年～最長10年から、最長20年にまで重刑化する新法が2015年8月に可決されたことを筆頭に、法律上の進展はあるものの、実情に改善は見られない。

（3）「ア」西アフリカ・中部アフリカ局長は、本報告書を発表する記者会見において、「（奴隷制度を抑制する）諸法は適切に適用されていない」と嘆いた。

（4）「ア」西アフリカ担当研究員は、モーリタニア当局は奴隷制度の存在を否定し、公式発表に逆らう者を非難すると述べた。

(5) ヒューマンライツ・ウォッチが本2月に発表した報告書によれば、人権擁護者たちは、民族及び階層差別、奴隷制度等の「モ」の最も機微な社会問題を提起する時に（政府当局からの）抑圧的措置に直面する。

(6) 「ア」によれば、2014年6月のアブデル・アジズ大統領再選（2選目）以降、モーリタニアにおける差別や奴隷制度を告発する活動家たちは、多種多様な抑圧的措置に身をさらされており、2014年以降168人の人権擁護者が恣意的に逮捕され、そのうち少なくとも17人が拷問若しくは他の虐待を受けた。

(7) 「ア」は、モーリタニア当局に対し、これまで多数の平和的デモの禁止若しくは多くは過度な暴力による鎮圧を行ってきたことを非難し、投獄された全ての活動家の釈放を要求しつつ、人権擁護者たちに対する攻撃をやめ、奴隷制度及び差別に終止符を打つための具体的かつ有効な手段を講じなければならぬと強調した。（「アトラス・インフォ」を引用する3月23日付独立系ニュースウェブサイト「クリデム」）

## 2 ウルド・シェイフ文化・伝統産業大臣兼政府報道官によるコメント

22日に行われた閣議後の定例記者会見において、ウルド・シェイフ政府報道官は本件につきコメントしているところ、要旨以下のとおり。

(1) モーリタニアの人権状況に係る諸々の国際機関による報告に関しては、国際機関自体というよりは、特にモーリタニアに駐在しない機関の情報源が得てして反政府活動家であり、情報が中立公正ではないことに問題があると以前声明を発表している。

(2) 言論、集会及び結社の自由が行使される開放的な雰囲気（がモーリタニアに存在すること）を日々全ての人に証明することが可能である。

(3) モーリタニアには、政治犯は存在しない及び拷問を受ける囚人はいないという憲法上の一節に関連し、特に濫用若しくは暴走が無いよう責任をもって物事を追跡するメカニズムが存在する。（27日付当地独立系ニュースウェブサイト「ヌアクショット・インフォ」）

## ● 4月24日 モーリタニアの2017年報道の自由ランキング

国境なき記者団（Reporters sans Frontieres）が24日にパリで発表した2017年報道の自由ランキングにおいて、モーリタニアは世界全体の72位となり、7年連続でアラブ諸国のトップに位置づけられた。RFSは報告書の中で、モーリタニアでの報道は危険な状況にないが、昨年より17ポイント順位を下げたのは、ウルド・ムハイティール（Ould M' Khaitir）の逮捕に加えて、予言者マホメットに対する冒瀆を罰する法律の制定がその原因であるとした。（4月26日付当地政府系紙「オリゾン」）